

名古屋市内の河川で目撃されたスナメリ *Neophocaena asiaeorientalis*

神田 幸司 堂崎 正博 森 朋子 漁野 真弘 春日井 隆

名古屋港水族館 〒455-0033 愛知県名古屋市港区港町1-3

Finless porpoise, *Neophocaena asiaeorientalis*,  
observed in rivers of Nagoya City.Koji KANDA Masahiro DOZAKI Tomoko MORI  
Mahiro RYONO Takashi KASUGAI

Port of Nagoya Public Aquarium, 1-3 Minatomachi, Minato-ku, Nagoya, Aichi 455-0033, Japan

Correspondence:

Koji KANDA E-mail: k-kanda@nagoyaminato.or.jp

## 要旨

2010年2月から2023年3月の間に名古屋市内の河川でスナメリ *Neophocaena asiaeorientalis* の目撃事例が9例あった。全国の河川で目撃されたスナメリのうち半数以上が名古屋市に集中している。このうち3例では河川内で魚を捕食している様子が確認された。冬から春にかけて名古屋港に来遊するスナメリが、河川内に魚を追って遡上している可能性がある。スナメリが目撃された場所はすべて感潮域内であった。堀川と新川の河川勾配が緩いことが、名古屋市内でのスナメリの遡上距離が長くなる一因と考えられる。

From February 2010 to March 2023, there were nine sightings of finless porpoises *Neophocaena asiaeorientalis* in rivers of Nagoya City. More than half of all reported finless porpoise sightings in rivers across Japan were concentrated in Nagoya City. In three of these cases, the porpoises were observed hunting fish in the rivers. This suggests that finless porpoises, which migrate to Nagoya Port from winter to spring, are swimming upstream in the rivers of Nagoya City to chase fish. All locations the porpoises were sighted were within tidal zones. The gentle gradients of the Horikawa and Shinkawa rivers are considered contributing factors to the extended upstream swimming distances of the porpoises.

## 序文

スナメリ *Neophocaena asiaeorientalis* はネズミイルカ科に属し、体長2 mに満たない小型のハクジラ類である。本種は二亜種に分けられ *N. a. asiaeorientalis* は中国の揚子江に生息し、*N. a. sunameri* は台湾海峡以北の中国、朝鮮半島および日本の沿岸に生息している (Jefferson and Wang, 2011)。国内では水深50 m以浅

の沿岸域に不連続に分布し (Shirakihara et al., 1992)、仙台湾～東京湾、伊勢湾・三河湾、瀬戸内海～響灘、大村湾、および有明海～橘湾で、遺伝的交流の乏しい5つの系群に分化している (Yoshida et al., 2001)。このうち伊勢湾・三河湾の生息頭数は約3700頭と推定されている (吉岡, 2002)。*N. a. sunameri* は海洋種であるが、ときには淡水域に侵入することがあり、中国と北朝鮮の国境

を流れる鴨緑江では20 kmまで遡上することが知られている(粕谷, 2011). 国内では河川への遡上例は稀であるが, 名古屋港水族館に寄せられた名古屋市内の河川での目撃事例が9件あったので, 斎藤ほか(2014)の迷入記録に記載済みの事例もまとめて報告する.

### 事例1 山崎川

2010年2月14日に名古屋市港区大江町の山崎川に「イルカのような動物がいる」との通報があった. 水族館職員が現地確認したところスナメリであり, 河口付近から上流3 km付近までの間を遊泳していた. この個体は首や背中が痩せていた(図1). 翌15日にも現地確認を行ったところ, 青峰橋の上流200 m(瑞穂区荒崎)で, 「つい先ほどスナメリが上流から下流に向けて泳いでいった」という目撃証言を得た. 現地は河口から4.3 km上流で(図2), 川幅は25 m程度であった. すぐに下流に向かって捜索したところ, 港区加福町付近でスナメリを発



図1 2010年2月14日に山崎川で観察されたスナメリ. 首と背中に痩せが見られる.

見した. 痩せ方から昨日と同個体のようであったが, 呼吸の様子が昨日より弱くなっているようであった. 翌16日にはスナメリの姿は見られなくなった.

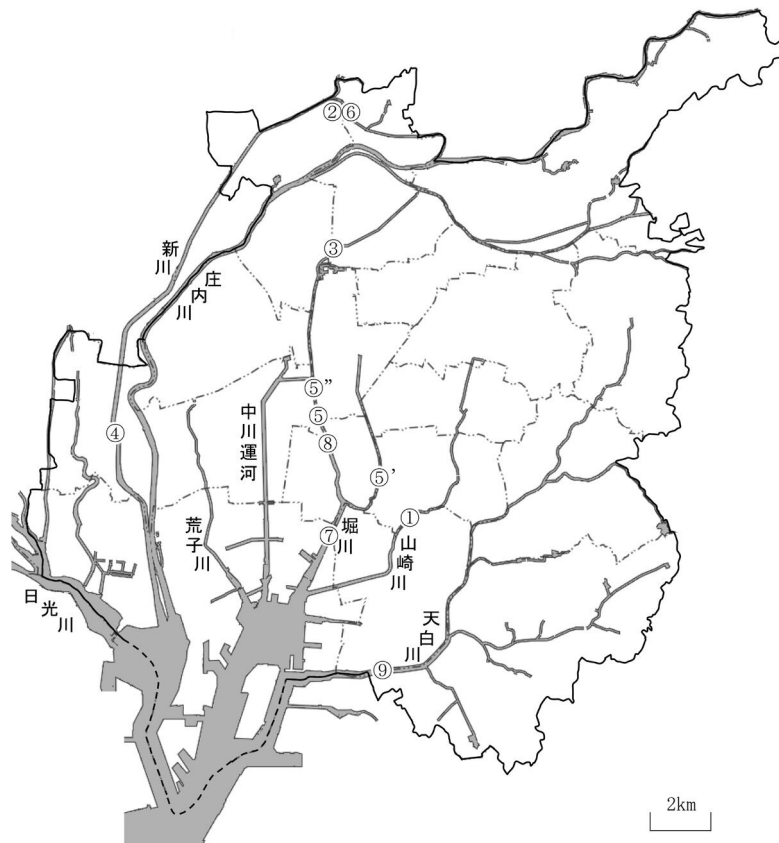


図2 名古屋市内の河川でスナメリが目撃された位置. ①山崎川(2010年2月14日), ②新川(2010年2月18日), ③堀川(2011年1月29日), ④新川(2012年2月8日), ⑤堀川(2012年2月13日), ⑤'新堀川(2012年2月22日), ⑤''堀川(2012年2月26日), ⑥新川(2020年4月9日), ⑦堀川(2022年6月14日), ⑧堀川(2023年3月8日), ⑨天白川(2023年3月19日)



図3 2010年2月18日に新川で観察されたスナメリ。尾柄が湾曲している。



図4 2010年2月18日に新川で観察されたスナメリを緊急保護する様子。

## 事例2 新川

2010年2月18日に名古屋市西区の新川で「スナメリが浅瀬に乗り上げている」との通報が警察からあった。水族館職員が現地確認したところ、河口から上流21 kmの新川と新地蔵川の合流部（北区楠町）に迷入しているスナメリを発見した（図2）。感潮区域である現地は、干潮の影響で川底が干出し、川幅は5 m程度に狭まっていた。水深がさらに浅くなりつつあったこと、当該個体は背部中央部から尾柄にかけてS字状に湾曲し遊泳が不安定であったこと（図3）、衰弱している可能性があったことなどから、緊急保護し（図4）、名古屋港水族館へ収容した。当該個体は体長177 cm、体重58.5 kgのオスであった。2011年1月29日に死亡した当該個体の飼育経過については、斎藤ほか（2014）が詳しく報告している。

以上に先立って2010年2月5日に清須市西堀江の新川で午前8時30分に「スナメリらしきものを見た」という通報があった。通報では背びれがあったような気がするが、体は白っぽい灰色だったとのことであり、2月3日にも同じような動物を見たということだった。水族館職員を現地に派遣したが、スナメリを発見することはできなかった。後に、2月6日にも付近でイルカのようなものを見たという通報があった。これらの通報例は前述の保護個体と同個体であった可能性がある。

## 事例3 堀川

2011年1月29日に名古屋城の堀に水を引き込む川に「スナメリのような動物がいる」との通報があった。水

族館職員が現場確認をしたところ堀川の中土戸橋から100 mほど上流（名古屋市西区域西5丁目）を泳ぐスナメリを発見した（図2）。現場は上流側、下流側ともに河川工事中でありスナメリが容易に通り返ることが難しい状況であったため、スナメリは夜間のうちに来遊し、行き場を失っているように思われた（図5）。現地は河口から12 kmで付近の川幅は10 m程度であったが、当該個体は川幅が30 mほどに広がっている箇所を遊泳し、フナのような魚を捕まえている様子が確認できた。同日の23時30分に現地確認をしたところ、感潮区域である現地は干潮の影響で水位が下がっており、当該個体は干出した川底に座礁した状態で死亡しているのを確認した。翌30日に当該個体を名古屋港水族館内で解剖した。体長は157 cm、体重46 kgのメスで、少し痩せが見られた。左右の腎臓には5 mm以上の結石が36個あり、最大のは長径45 mmだった。胃腸内には寄生虫は見つからず、胆管内に7 mmの吸虫を3匹確認した。また第一胃からは釣り針やプラスチック片が見つかった（図6）。

## 事例4 新川

2012年2月8日に新川に「イルカのような哺乳類がいる」との通報があった。水族館職員が現地確認をしたところ、新川の富田高校前人道橋付近（名古屋市中川区富田町）を泳ぐスナメリを発見した（図2）。遊泳の状態は通常であった。現場は河口から6.5 km、川幅は80 mであった。





図5 2011年1月29日に堀川で観察されたスナメリ。写真奥が下流側で河川工事を行っている。



図6 2011年1月29日に堀川で観察されたスナメリの第一胃から見つかった釣り針とプラスチック片。



図7 2020年4月9日に新川で観察されたスナメリ。川底が干出している場所があるが、落ち着いて遊泳し淡水魚を捕食していた。



図8 2020年4月9日に新川で観察されたスナメリ。水位が下がると浅瀬に座礁を繰り返し、その都度水族館職員が深場へ押し戻した。

### 事例5 堀川

2012年2月13日に堀川に「スナメリがいる」との通報があった。水族館職員が現場確認を行ったところ、堀川の尾頭橋付近（名古屋市中川区尾頭橋通）を泳ぐスナメリ1頭を確認した（図2）。性別は不明で、遊泳の状態は通常であった。現場は河口から6.3 km、川幅は20 mであった。同月22日にもスナメリ迷入に関する通報があり、水族館職員が現場確認を行ったところ、新堀川の新開橋付近（名古屋市長久区新開町）を泳ぐスナメリ1頭を確認した（図2）。現場は河口から5.5 kmで、川幅は16 mであった。同月26日には堀川の山王橋付近（名古屋市中区山王）を泳ぐスナメリを1頭確認した（図2）。現場は河口から6.7 km、川幅は20 mであり、当該個体が体長20～30 cmのボラをくわえているところを確認し

た。堀川と新堀川はそれぞれのスナメリ発見現場のおよそ2 km下流で合流している。これらのスナメリは同一個体であった可能性がある。

### 事例6 新川

2020年4月9日に名古屋市中区の新地蔵川で「イルカが泳いでおり浅場から抜け出せないようである」との通報を市民から受けた警察から連絡があった。水族館職員が現地確認したところ、河口から上流21 kmの新川と新地蔵川の合流部（北区楠町）の事例2と同じ地点に迷入しているスナメリを発見した（図2）。感潮区域である現地は、干潮の影響で川底が干出している部分があったが、当該個体は落ち着いており淡水魚と思われる魚を捕食する様子が観察された（図7）。この日は大潮であり、

河口である名古屋港の干潮時刻は12時54分であったが、約1時間後にスナメリが浅瀬に座礁したため、水族館職員がスナメリを水深の深いところに戻した。その後も何度もスナメリは浅瀬に座礁を繰り返し、そのたびに水族館職員がスナメリを深いところに押し戻した(図8)。15時半頃ようやく深いところで泳ぎが安定するようになった。その後夕方までスナメリの様子を確認し遊泳行動に問題はなかった。以後このスナメリの確認情報は無い。スナメリは水産資源保護法の対象種である。事例2の保護の場合だけでなく、本事例においても、愛知県農林水産局水産課および同課を通じて水産庁とも連絡をとりながら対応した。

### 事例7 堀川

2022年6月14日に堀川をスナメリ1頭が泳いでいるところを、水族館職員の関係者が発見した。現場は紀左エ門橋の下流側(名古屋市港区木場町)で河口から1.5 km(図2)、川幅は100 mであった。

### 事例8 堀川

2023年3月8日に堀川を「スナメリ1頭が泳いでいる」との通報があった。現場は瓶屋橋の上流側(名古屋市熱田区新尾頭)で河口から5.3 km(図2)、川幅は40 mであった。水族館職員は現地確認できていない。

### 事例9 天白川

2023年3月19日に天白川を「スナメリ1頭が泳いでいる」との通報があった。現場は千鳥橋の上流側(名古屋市緑区鳴海町)で河口から2.1 km(図2)、川幅は140 mであった。水族館職員は現地確認できていない。

### 考察

国立科学博物館海生哺乳類ストランディングデータベース(国立科学博物館, 2023)には、名古屋市内の河川でのスナメリの記録として9件の登録があった。うち8件が本報告の事例1から6で、事例5については日付別で3件登録されていた。同データベースには本報告事例以外の名古屋市内の河川での記録として、2000年12月15日に名古屋市熱田区堀川大瀬子橋(河口より4 km上流)でスナメリの迷入が記録されている。同データベースに

は、名古屋市以外での河川でのスナメリの記録は7件あり(河口での記録は除く)、1886年大阪府尻無川、1935年東京都隅田川、1994年大阪府神崎川、1999年千葉県利根川、2011年三重県城田川、2013年佐賀県六角川、2017年東京都隅田川であった。これらの他には2020年に佐賀県の本庄江川で、干潮時に泥にはまったスナメリを住民らが救助した例がある(佐賀新聞, 2020)。全国の河川でのスナメリの迷入記録(17件)と比較すると、名古屋市の河川での記録は国内の記録のうち半数以上を占めることがわかる。

名古屋市の河川での記録は新川、堀川、山崎川、天白川であり、これらはすべて名古屋港に注ぐ川である。名古屋市にはこの他に庄内川、日光川、荒子川および中川運河があるが、このうち日光川、荒子川、中川運河は河口に水門があり、スナメリが遡上することはできない河川または運河である。名古屋港水族館による調査では名古屋港には冬季にスナメリが来遊することが明らかになっているが(斎藤ほか, 2014)、その後の調査で名古屋港には冬季と春季にスナメリの来遊が多いことがわかってきている(神田ほか, 未発表)。事例7以外はすべて名古屋港へのスナメリの来遊時期と同じ時期の記録である。また事例3, 5, 6では河川内で魚を捕食しているところが目撃されており、狭い河川でもスナメリが落ち着いている様子がうかがえる。冬から春にかけて名古屋港内ではスナメリがボラやコノシロといった表層性の魚類を捕食している姿がよく目撃されている。川の汽水域にも分布するこれらの餌生物を求めてスナメリが川に遡上していることが考えられる。河川内でスナメリが目撃された場所はすべて感潮域であった。特に熱田台地の西側に位置する庄内川や堀川では河川勾配が緩く、堀川は河口から14 km、新川は全域が感潮域である。このことが名古屋市内で河口から10 kmを越えるような場所でスナメリの遡上が起きやすい要因であると考えられる。名古屋市のような大都市の港でスナメリが定期的に観察されることは国内に例がないが、市街地の河川でスナメリが繰り返し目撃されることも例がない。スナメリの存在は名古屋市の生物多様性の特徴といえるのではないか。

## 謝辞

河川に迷入するスナメリは、その一次情報を市民の皆様から提供いただいた。またその後のスナメリの状態の記録は名古屋港水族館の同僚諸氏の調査によるものである。これらの方々に対し厚く御礼申し上げます。

## 引用文献

- Jefferson, T.A. and J.Y. Wang. 2011. Revision of the Taxonomy of finless porpoises (genus *Neophocaena*): the existence of two species. *Journal of Marine Animals and their Ecology*, 4(1): 3-16.
- 粕谷敏夫. 2011. イルカ. 東京大学出版会, 東京. 640pp.
- 国立科学博物館. 2023. 海生哺乳類ストランディングデータベース. <https://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/marmam/drift/index.php>. 2023年8月15日確認
- 佐賀新聞. 2020. 朝刊. 住民連携迷いスナメリ救出, 2020年12月13日
- 齊藤 豊・堂崎正博・祖一 誠. 2014. 名古屋港に生息するスナメリの調査. *海洋と生物*, 36(1): 29-35.
- Shirakihara, K., H. Yoshida, M. Shirakihara and A. Takemura. 1992. A questionnaire survey on the distribution of the finless porpoise, *Neophocaena phocaenoides*, in Japanese waters. *Marine Mammal Science*, 8: 160-164.
- Yoshida, H., M. Yoshioka, M. Shirakihara and S. Chow, 2001. Population structure of finless porpoises (*Neophocaena phocaenoides*) in coastal waters of Japan Based on Mitochondrial DNA sequences. *Journal of Mammalogy*, 82(1): 123-130.
- 吉岡 基. 2002. 伊勢湾・三河湾調査. 環境省自然環境局生物多様性センター (編). 海域自然環境保全基礎調査海棲動物調査 (スナメリ生息調査) 報告書, pp. 53-90. 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田.